

平成28年度課外プロジェクト実施報告書

(課外プロジェクト名)

「災害食」知ろう!作ろう!広めよう!プロジェクト (防災トライ部)

1. 組織

大学院 M2	小林 裕子 (代表者)
大学院 M2	西窪 玲衣
教職大学院 P2	久保 智子
大学院 M1	前田まどか
大学院 M1	山本 真子
学部 4 年	蒲原 有紀
学部 3 年	三輪 遥香
学部 2 年	松原 大貴
学部 2 年	永見 優衣

2. プロジェクトの概要

世界でも有数の災害大国である我が国では、災害時の食にどう備え対応していくかは重要な課題である。しかし、その必要性は分かっているにもかかわらず日常生活では後回しになりがちである。そこで本プロジェクトでは、従来までの「非常食」に代わり、日常生活で食する常温で保存できる食品を多めにストックし、災害時にも活かす「災害食」の有用性や実践方法を、体験を通して広めていくことを主目的とし活動した。同時に教員を目指す本学学生の防災意識向上や地域との災害食を通じての交流も目指した。

3. プロジェクトの計画及び活動詳細

1) 大学生・大学院生対象ワークショップの実施 (合計 4 回)

- 10月 3日 (月) 参加者 2名
- 10月 13日 (木) 参加者 6名
- 10月 19日 (水) 参加者 4名
- 10月 24日 (月) 参加者 10名

本学大学生・大学生対象に災害食のワークショップを 10 月に計 4 回実施し、22 名の参加者を得た。ポスターやチラシで参加者を募り、気軽に体験してもらえるよう昼休みを活用し 1 時間程度で実施した。①パワーポイントを使った講義形式の説明、②災害食の調理体験と試食の 2 つを軸に実施した。災害食は調理が簡単でおいしく、また日常生活においても有用であることを実感してもらうことができた。このワークショップを契機に、活動の趣旨に賛同した参加者 3 名が新たにメンバーとして加入することになった。

また、防災トライ部の活動が親しみやすいものになるよう、大阪芸術大学の有志メンバーの協力を得て、オリジナルキャラクターである「トライブ君」と「防災トライ部ロゴマーク」を作成

し、今後の活動に使用することにした。

<ワークショップの様子>



<トライブ君とロゴマーク>



2) 兵庫教育大「嬉望祭」 災害食ワークショップと試食会の実施

2016年11月12日(土)の大学祭では、共通講義棟108教室にて災害食イベントを実施した。常温で保存できる食材を使い、耐熱性ポリ袋、カセットコンロを活用して調理した温かい災害食「ツナじゃが」と「炊き立てご飯」150食を無償で提供した。数名の参加者による公開調理体験を同時実施した。災害食についての説明や作り方の動画を準備し、スクリーンにてエンドレス再生をした。参加者が試食しながら、動画を視聴し災害食について理解できるための工夫である。廊下側壁面にはポスター発表用の大ポスターを掲示した。内容は災害食やローリングストック法以外に、配布した献立の栄養計算、耐熱性ポリ袋の選び方の基準などを扱った。地域住民を中心に幅広い年齢層から200名以上の参加者があり、予定より1時間以上早いペースですべての災害食が完食となる大盛況であった。「参加してよかった」「家でもやってみます」「帰って備蓄を見直します」などうれしい感想をいただいた。また、非常にたくさんの方との交流が実現した。

<ワークショップでの調理体験>



<ポスター掲示>



<ワークショップでの講義風景>



<調理配布したツナじゃがとご飯>



3) 三木市自由が丘地区自主防災訓練への参加

2017年1月15日(日)、「災害食」を地域に広めるボランティア活動を実施した。三木市自由が丘地区の自主防災訓練は、800人以上の参加がある県内でも有数の訓練である。雪の降る寒い中、大勢の方が参加くださった。地元の自由が丘中学校から3名の生徒がボランティアメンバーとして参加し、共に活動してくれた。本メンバーのうち、学部生4名が主に中学生のボランティア活動の指導、サポートを担当し交流をした。災害食やローリングストック法の考えや実践方法の説明、参加者の質問にお応えした後は、カセットコンロと耐熱性ポリ袋で調理した災害食「ツナじゃが」と「ごはん」を50食提供した。参加者から、「非常食よりも断然いい!」「日常でも十分おいしくて便利」「自分なりの献立を工夫したい」とうれしいお声をたくさんいただいた。

<活動の様子>



4. 得られた成果

本活動により、当初の想定を超える大勢の方々に災害食の利点や実践方法を知っていただくことができました。各活動で実施した参加者への事後アンケートの回答から、災害食を扱った活動が意義あるものであったと再確認することができました。また、活動内容を神戸新聞や毎日放送で取り上げていただいたことやSNSで情報を発信したことで、直接参加いただくことができなかつた方にも、災害食の有用性を伝えることが可能となった。

活動中は、先生方や大学職員の方々をはじめ、地域の皆様や本学の学生の皆様など本当に多くの方に支えていただき、活動がより実りあるものとなった。応援や励ましのお声もたくさんいただき感謝の気持ちでいっぱいである。今後も、この活動を何らかの形で継続していければと考えている。

<毎日放送 ちちんぷいぷいに出演>



<神戸新聞に活動内容が掲載>



5. 費用の内訳

(円)

消耗品	旅費	謝金	その他	合計
166,460	19,440	7,000	0	192,900